

調教Gメン「クイーンS2021」調教評価

芝馬場で結果を出す厩舎

今年は函館芝 1800m で行われるクイーン S。

よって、今回は今年行われた函館芝 1800m の調教タイプの傾向を重視。

すると「追い切り本数が標準以上の併用系統の調教タイプ」の調教適性が重要であることに気がきました。

北海道でレースに出走する場合の仕上げとして、美浦栗東のトレセンである程度の追い切りを消化してから函館や札幌に入厩するパターンと、牧場で乗り込んで、直接競馬場へ入厩というパターンがあります。

本数標準以上の併用系統となれば、トレセンで坂路を含めた、ある程度の本数を乗る必要がありますが、今年の函館芝 1800m はこれが好走傾向。ちなみに該当出走馬は[3-0-2-8]となります。

◎クラヴァシールドは標準併用。

栗東坂路では、7月11日と14日の時計を出していて、14日の2F24.4秒、1F11.7秒が非常に優秀。

最終追い切りは函館芝で単走でしたが、滞在効果なのか、道中の走りが落ち着いていた点に好感が持てました。

中内田充正厩舎の芝馬場追い切りは好成績をイメージしていたので、ここであらためて検証。

2019年以降の重賞に出走した、最終追い切りが芝馬場の牝馬の成績。これが[4-0-0-3]という数字でした。

このクイーン S は 2019 年にミッキーチャームが 1 着。
当時は札幌開催で札幌芝での最終追いでしたが、やはり芝馬場で結果を出す厩舎ですし、
函館芝 1800m には過去 3 年で 2 戦 2 勝の厩舎適性もあります。

○マジックキャッスルは標準併用。

1 週前追い切りが美浦坂路で 4F51.3 秒。
最終追い切り函館 W での動きを見ても、小回りだから
パフォーマンスを下げるといふことはなさそう。

美浦へ入厩して、追い切りを開始した時期も適度ですし、
この馬が勝つ確率も相当高いと思います。

△シャムロックヒルは栗東でしっかりと乗り込んできましたが、
坂路での追い切りが少なく、調教タイプとしては標準多めトラック。

2 週前追い切り、1 週前追い切りが CW できちんと速い時計を出したので、
最終追い切りは函館 W で軽くなりましたが、これは予定通り。
あとはこの枠からどんなレースをするか。

☆フェアリーポルカは最終追い切りが函館 W。

半マイルでしたが、後ろに突かれるような形での
追い切りはなかなか味があったと思います。

近 2 走はダートを走ったことよりも、
地方競馬場の小回りを経験したことが大きな意味を持ちそうです。

注イカットは格下ですが、最終追い切り函館 W での動きが軽快。

前走のように函 W で前日追いを課している(入稿時点では確認できず)ようなら、
やはり好調なんだと思います。

注ローザノワールは芝実績こそありませんが、ハナ主張は間違いないでしょう。

最終追い切り函館 W での動きを見ていると、
その残り目も匂わせる、軽快な動きだったと思います。